

支え励まし合う「第一の家族」

No.411

9

た。

全寮制の同校では、先輩と後輩の結びつきを深めるための「ファミリー制度」がある。フ

アミリーは、1年から6年（高校3年）までの各1～2人と教諭1人で構成する。男女別。メンバーやは変わらない。ファミリ

ーごとに、学校や教師の自宅で年数回の食事会を開くほか、わらじ作りや寮の菜園での野菜栽培、誕生会などをする。

「やべー、うめー！」
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校の男子生徒7人が11月初旬の土曜日、学校の調理室で作った「ホルモン鍋」をかき込んでい



「ファミリー」とホルモン鍋を食べる 笹原翔君（左から2人目）＝宮崎県五ヶ瀬町

いなら家に電話せーよ」と2年の『兄』に励まされ、ありがたかった」と振り返る。笹原君の「弟」たちは、「部活動は上下関係が厳しい。先輩とワイワイやれるのはファミリーならでは」と、笑顔を見せた。

1週間ほど前には、6年の小田純平君(18)のファミリーが寮の職員の仕事を学ぶ「厨房体験」をしていた。

毎年1度があるので、小田君に

とつては6度目。厨房に入る前、「手はブラシで爪の間もよく洗って」と、1年の村上亮介君(13)に教えた。食器の並べ方

から片付け方まで、基本的な作業を後輩へ受け継いでいく。

毎年4月にあるわらじ作りでも、編み方やコツを後輩に教えるのはファミリーの「兄」たちは。「後期生（高校生）になつた。」「後輩に教えることや、ファ

ミリーをまとめる」ことを考えるようになつた」と話す小田君。

「後輩に見られているからしつかりしないと、という緊張感は常にあります」（斎藤純江）

この日は、6年生の笹原翔君